

Plasma 人工骨

e = Bone[®]

Web Seminar

～人工骨はどこまで進化したか～

日時

2026年 2月 19日 (木) 19:00～20:00

座長

海渡 貴司 先生 大阪ろうさい病院

特別講演

渡邊 慶 先生 亀田第一病院

脊椎固定術で骨癒合を成功させるための戦略と工夫
－ e=Bone[®] の使用経験を含めて

Case
Presentation

神前 拓平 先生 和歌山県立医科大学

骨粗鬆症性椎体骨折における e=Bone[®] の使用経験

辻 太一 先生 豊田厚生病院

脊柱変形手術における骨移植 － 私の使い分け－

大羽 文博 先生 函館中央病院

PLIF での e=Bone[®] の使用経験

開催方式

Zoom ウェビナー 要事前申込 参加費無料



特別講演

脊椎固定術で骨癒合を成功させるための戦略と工夫 — e=Bone® の使用経験を含めて

渡邊 慶 先生 医療法人愛仁会亀田第一病院 新潟脊椎外科センター

腰椎固定術においては、正常アライメントを獲得しつつ確実な骨癒合を獲得することが最終目的である。手術要因としては、即時安定性を獲得するためのインプラント設置の工夫と移植骨の選択が重要になる。インプラント設置としては、安定した前方支柱再建や multi-rod construct は特に中下位腰椎では有用となる。また、重度の骨粗鬆症を有する患者に対しては、椎弓根スクリュー設置の工夫、フックや椎弓下テーピングの併用など患者の状態よってきめ細かな工夫を講じることが骨癒合獲得やメカニカル合併症の低減に重要となる。移植骨については、現在様々な骨補填材料が使用可能であるが、e=Bone® は高気孔率（約 70%）をもつ吸収性人工骨であり、プラズマ処理（アミン修飾）によって従来の人工骨と比べて、高い骨伝導能と骨形成能もあわせ持ち、早期の骨癒合獲得に有利となる。また、高い強度（30MPa）の材料特性も持つことから椎体間など荷重部位にも使用しやすい。今回、e=Bone® 使用症例も供覧しつつ、脊椎固定術における骨癒合獲得の要点を述べさせていただく。

【お申込み】 <https://www.aimedicmnt.co.jp/ews.html>

【お問い合わせ】 ews@aimedicmnt.co.jp